

目 次

【ステップ1】	
医者と病人（マタイ 9:9-13）	1
だれが私を（ローマ 7:14-8:2）	11
【ステップ2】	
神を呼ぼう（詩篇 86）	23
狂気から正気へ（マルコ 5:1-20）	34
【ステップ3】	
意志をあけわたす（申命記 30:11-20）	47
生活を明け渡す（ローマ 12:1-2）	59
【ステップ4】	
自己点検の恵み（第一ヨハネ 1:5-2:2）	71
【ステップ5～7】	
悔い改めの恵み（詩篇 51:1-4）	82
変化の恵み（ローマ 12:1-2）	93
【ステップ8～9】	
つぐないの恵み（ルカ 19:1-10）	103
【ステップ10～11】	
黙想のすすめ（詩篇 119:25-32）	114
【ステップ10～11】	
原則の実行（ガラテヤ 5:16-26）	123

『回復への道—12ステップの旅—』に収められた講話は、2007年9月から2008年2月にかけて、カリフォルニア州キャンベル市にあるサンタクララバレー日系キリスト教会で語られたものです。聖書箇所は新改訳聖書第二版より引用しました。

回復のための12のステップ

1. 私は、自分の依存症にたいして無力であることと、自分の生活が自分の手に負えないものになってしまっていることを認めました。
2. 私は、自分よりもすぐれた力が私を正常に戻してくれることを認めました。
3. 私は、私の意志と生活とを神の配慮のもとに置く決心をしました。
4. 私は、臆することなく自分自身をほりさげ、道徳面での自己反省をしました。
5. 私は、神に対し、自分に対し、他人に対し、自分のどこが間違っていたかを、はっきりと認めました。
6. 私は、こうした性格上の欠点を取り除いていただくことを、全く神におまかせする気持ちになりました。
7. 私は、私の短所を取り除いてくださいと、謙虚に神に求めました。
8. 私は、自分が害を与えたすべての人々の名をあげ、その人たちすべてに心からそのつぐないをする気持ちになりました。

9. 私は、機会のあるごとに、その人たちへのつぐないを、その当人や他の人を傷つけない限り、直接にすることにしました。
10. 私は、引き続いて自己反省を行い、自分が誤っていた時は、すぐにそれを認めました。
11. 私は、私に対する神の意志を知り、それを実行する力を得るために祈り、神との意識的なふれあいを、祈りと、黙想とによって高めていく努力をしました。
12. 私は、これらのステップをへて精神的に目覚めましたので、このメッセージを他の人に伝え、あらゆる事がらにこの原則をあてはめるよう努力しました。

医者と病人 マタイ 9:9-13

9:9 イエスは、そこを去って道を通りながら、取税所にすわっているマタイという人をご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。

9:10 イエスが家で食事の席に着いておられるとき、見よ、取税人や罪人が大ぜい来て、イエスやその弟子たちといっしょに食卓に着いていた。

9:11 すると、これを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人といっしょに食事をするのですか。」

9:12 イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」

9:13 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

一、回復の旅

聖書で使われている「救い主」という言葉には「いやし主」、また、「医者」という意味があります。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です」と言われたとき、主イエスは、あきらかにご自分を「医者」であると言われたのです。主イエスは、人々と、この世界を「罪」という死に至る病からいやすために来てくださった「いやし主」、また「救い主」なのです。すると、主イエスを信じ、主イエスに従っている人たちは「病人」であるということになります。そうです。主イエスが医者なら、私たちは「病人」です。

私がこう言いますと、皆さんは、「ちょっと待ってください。クリスチャンは、かつては病人だったけれども、イエスさまにいやされて、もう健康な者になったのではありませんか」とおっしゃるかもしれません。確かに、イエス・キリストを信じた者は、死の病からいやされて、新しい命に生かされています。主イエスは、目の見えない人を見えるようにし、耳の聞こえない人の耳を開き、寝たきりの人を立ち上がらせ、らい病をきよめ、死人さえも生き返らせました。そのようにクリスチャンは、神を見る信仰の目を与えられ、神のことばを聞く耳を与えられ、神に従って歩む足を与えられ、きよめられ、永遠の命を与えられました。第一ペテロ 2:22-24に「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです」とあるように、確かに、クリスチャンはいやされているのです。

しかし、もう医者が必要でないほどに完全になったのではありません。手術の後は、かならずフォローアップの受診が必要ですし、慢性の病気を持っている人は、生涯、医者にかからなければならないかもしれません。同じように、すべてのクリスチャンは、すでに死の病から

いやされてはいますが、この地上ではまだ回復の段階にあって、主イエスのいやしが引き続いて必要なのです。

「クリスチャンになるまではキリストのいやしが必要だが、クリスチャンになったらもう要らなくなる」というのは誤解です。どんなに信仰の成長した人でも、「私は、キリストを信じて健康になりました。私にはもういやしは必要ありません。私が教会に行くのは、自分のためではなく、まだ病気の他の人を助けてあげるためです」と言うことはできません。どんなに成長したクリスチャンも、まずは自分自身のいやしのために教会に来るのです。そして、同じようにいやしを求める他の人たちと手をつなぎ、共に私たちの医者であるキリストのもとに行くのです。

初代から今日に至るまで、教会では「主よ、私たちをいやしてください」「主よ、私たちをあわれんでください」との祈りがささげられてきました。教会はたましいのいやしの場であり、それを通して世界のいやしを祈り求めるところでした。けれども、教会の中にビジネスの要素が入ってきて、教会は人数を増やし、組織を強くすることによって社会に影響を与えなければならないと考えられるようになりました。「信仰の成長」という目に見える結果がすぐには表われないもの、また、「たましいのいやし」などという時間のかかることは後回しにして、「キリストを信じたら、すぐ奉仕をしなさい」といって、人々を活動に駆り立ててきました。人々は活動によって満足を得てしまって、人間は “human-being” で

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

www.penguinclub.net